

世界の伝統ニットシリーズ ★Peru Sweater

# ペルーセーター

- 現地取材レポート  
アルパカセーターに巻かれて
- ヘアで楽しむ  
ペルーのセーター
- 手紡ぎ、手染めの魅力  
草木染めのニット



オーグ社

# ペルーセーター

- もくじ
- アルパカセーターに憧れて.....4
- これが本場のペルーセーター.....8
- ★素材は暖かい
- ペルーのニット.....11
- ★手結ぎ、手染めの魅力
- 草木染めのニット.....28
- ★ペアで楽しむ
- ペルーのセーター.....31
- ★子供たちに
- アルパカ糸で手づくりの履かせ.....39
- この本の作品に使われている
- アルパカ・ヤーン.....43

- 素材 / 国産手織
- カメラ / 熊本県 鈴木信雄
- スタイル / スト / 竹山裕子
- ペア / 西藤友子
- 服下 / 吉本有美子 加藤天和子
- イラスト / 伊藤和雄
- 編製協力 / 宮野みどり
- レイアウト / 長瀬高寿 原田寿子
- 編集協力 / 西島洋子 成山さゆり



〈フリアカセーター〉  
 チョンプルタイプは4色出し  
 いは丸ヨウ割込みもみが多い  
 チョンプルステコラスティックも  
 フリアカ糸は2種編まれている。

〈コワカセーター〉  
 この素材はカチカチを  
 脱毛するのが得意で  
 セーターは左のうら  
 ルカ、P13Pがある。

ビルク  
 〈クイカ柄〉

★チョンプルP13P

フリアカ

コワカ

アマニ

イラテカ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

アタニ

〈イラテカ〉  
 この素材(PUNO県)では一種独特の  
 共同自治体文化社会を作っている  
 大抵の国のような島である。男も女も  
 上のような民俗衣装を着ている。  
 男も女も編み物好きで、  
 ニットには、贈物にして仕事か  
 本と細かくて  
 多い。

〈アトアトアトP13P、P13P〉  
 一般的にいはいは  
 セーターを編む。

〈CON. NUDE(ヌード)セーター〉  
 3つ折り編みが多い。は  
 セーターはイター、アマニ、ア  
 テリ糸は生産が多い。

〈ゲヤフレロ〉  
 ペルーボリビの  
 国境の山で、厚手の  
 ニットが活躍する。



ナチュラカマ

## アルパカセーターに憧れて

●取材／(有)中山商店 黒田千恵

私は、インディオ達に編物の技術指導をするため、1980年1月27日真冬の日本から、南米のペルーに飛び立った。私は、アンデス山脈があるインカ帝国のインディオと一緒に仕事(生活)が出来るのだという。胸のしめつけられるような激しい憧れの気持ちいっぱい日本を後にした。だが、最初に待ち受けていたペルーの首都リマは、唯々、索漠とした、ムッとする真夏の砂漠の中の都市で、私の想いぐらしていたインディオの国という感じはまるでなかった。が、数日後リマを後にし、飛行機で約1000km(時間にして1時間)南下した。アトニーパーに行き、そこで約2時間待ってそこから約300km(時間にして20分位)東のフリアカに飛んだ。フリアカの飛行場が近づ

くつれて、初めてインディオの国ペルーに来たという実感が胸をあげて来た。それはまるで不思議の国のアリスのように、タイムトンネルを通るか、鏡をぬけるかして、全くあべこべの国に来てしまった様な感じであった。遙かかなたにチチカカ湖を望み、広大に広がる。なだらかに起伏する大地は、その沈黙の中で昔を語り、インカの神、太陽や、人々が崇めた自然、米河や湖は、何百年も前から変らぬ風景の中で、静かに呼吸していた。フリアカから私が生活していた隣り村のプリアーハは約40km、そのうち約30kmが芝罫で線引を引いた様な一直線の道で、それは何んだか私を時間のパラドックスの中に落し入れてしまう様な感じだった。時間というものは、前向きに進むものと



アルパカ

ばかり思っていたが、後ろ向きにも進む様な、あるいは、ずっと静止している様な妙な感じの光景がずっと続いた。



クスコにあるお祭り

### ★アルテサーノ(インディオ)の生活

ほとんどのアルテサーノ達は、本業は農業である。ジャガイモ、キヌア、玉米、アビ(そら豆)、トウモロコシなどの農作物を収穫している。標高3800m前後のこのあたりでは、収穫物の種類もだいたいきまっている。日本の様な近代の農業とは全く異なり、鎌や鋤で昔ながらの方法で営んでいる。せいぜい自分達が食べていける分位しかつからない自給自足の農業である。彼らは副業としてアルパカのセーターを編んでいるのである。



147年までの少女がかぶっている帽子。耳当て付(チュリヨ)のものもある。

### ★ペルーセーターの歴史

染織技術が発達していた古代アンデスでは、それらの染織産品が多く、編物と呼ばれる物も、数多く発掘されているが、それらは装飾的なショールであったり、ポンチョ風の上着であったり、何に使ったのか不明な帯状のメリヤスの丸編であったり、袋物であったり、いわゆるセーターというものは、古代にはなかったようである。以後、スペイン人等のヨーロッパ人が伝えたのであろうが、今の様なセーターの歴史は、本当に浅いものと思われ。

インディオの作ったアルパカセーターは、1972年～1974年頃、ヨーロッパや日本で爆発的な流行になったのを記録しているが、恐らくこの頃、大々的に世界のあちこちに輸出し始めたのではなかろうかと思われる。他の伝統あるセーター(ロビエ、アラン、ガーンジー、シェットランドなど)と異なる点は、それぞれ、その地方の人々が身に付けたのに対して、ペルーのアルパカセーターは、売り物として、編まれていたという点である。インディオの男の人の伝統的な衣装はポンチョにチュリヨ(耳当てつき帽子)であり、女の人の衣装も昔ながらの重ね着スタイルである。

### ★柄の種類

古代アンデス文化の中で、最も華やかで繊細なデザインは染織であろう。その染織のデザインで各時代共通している事は、人々が崇めた、あらゆる自然界のものである。なかでも特定の動物や、植物を守護神として祭る事から来ており、猫科動物(プーマ)や全知全能の神ピラコチャなどが表現されている。一般的に動物模様を抽象化したものが最も多く、鳥類、魚類が大部分を占めるが、植物模様は殆んどトウモロコシでしめられている。

そういう何千年もの歴史をはぐくんで来た、アンデス文明のデザインを背景として、セーターの柄なども生まれて来ているのである。

セーターの柄としては、いろいろな幾何学模様だけの組合せのもの、幾何学模様+具象柄、例えば、リヤマ、リャメロ(リヤマと人の組合せ)、チョーロ(男の人)、チョリタ(女の人)、エストレリア(星柄)、マリポーサ(蝶々柄)やトゥミ一柄などがある。

セーターに、リヤマと人の組合せのものが多く、これはペルーでの人々とリヤマの密接な結びつきを表わしているものである。

テクニク的には以上の編込み柄を、多くはカウチンセーターのように糸を編みくむ方法のもの、NUDO(糸ノ)と言われているぶつぷつ編が入っているものがある。



ゴジテス(手袋)

くつ下

### ★ペルーセーターの材料・アルパカ

アルパカは、南米のペルーを中心にアンデスの山岳地帯、海拔3650メートル以上の高地に限り、生息しているラグダ科ニラマ属の動物である。その毛は柔らか



ペルーの伝統的な織物。ペルーの伝統的な織物。

く、絹状の光沢、暖かさ、軽さ、なめらかな感触など、どの毛にも勝るとも劣らないものがある。このアルパカの子供の毛(ペビーアルパカ)は特に柔らかく、糸の中でも最高級に属するものであろう。アルパカの毛の刈入れは10月頃に行なわれる。毛糸用には繊維を長くし、2年に1回刈入れた毛を使用する。毛の長さは大人のアルパカで15cmぐらい、子供のアルパカで5cmから10cmぐらいある。織物用(工業用)には、最近では1年に1回刈入れた毛の短いものも使われている。

アルパカには17種類(こげ茶、茶色、黒、グレー、生成りなどのグラデーション)も天然の色がそれぞれにいわれている。この色が、素材の良さにプラスした大きな魅力となっている。

需要が増えることにより、アルパカそのものナチュラルカラーだけでなく、最近では羊毛や、草木染めの糸も加えて作られている。



リヤマとマリポーサ



St. マンデーラの町

## ★アルパカセーターの出来るまで

アルプナーノ達は、アルパカのセーターを作るのに、まずフエリア(日曜市)に出かけ、アルパカの原毛を入用分だけ買う(インディオ達の生活は厳しく、その日暮しの生活で、何を買いにも今、使う分だけという様な買い方をしている)。色としては、生成りが一番値段が高く、エレフエ(ベージュ)、プロモ(グレー)が続いて、茶色、こげ茶、黒等は他の色と比べると少し安く売られている。その理由は、生成りやエレフエやプロモのアルパカ自体の数が少ないからである。

アルプナーノ達は、荷物や赤ん坊を背負って歩いている時も、おしやべりをしている時も、手を休めることなくせっせとアルプナーノ達は、荷物や赤ん坊を背負って歩いている時も、おしやべりをしている時も、手を休めることなくせっせと



①ブチカと呼ばれる紡績具  
②ピンチヤール(起毛器)

こ、せっせと、ブチカと呼ばれる紡績具をあやつって糸を紡いでいる。ブチカは、割りばしぐらいの太さで、長さ約30cmから40cmぐらいの木の先に、陶器や石、木の実のおもりをつけたもので、指を器用に動かして、規則的な回転を与えながら、両手だけで紡ぐのである。



インディオが紡いだ糸の玉

センチメートルもなく、ゲージもなく、自分の手で大きさを計るのである。従って編込み模様の柄も方眼紙に書くのではなく、全部自分達の頭の中に入っている。編針は、今では、ほとんどのアルプナーノ達が輪針を使っているが、それは、ここ2、3年で急に普及したと言ってよいだろう。それまでは木を削って棒針にしていたのである。だから日本の様に0号-15号という様に、正式に決められた号数がなく、適当な太さに削って使っていたのである。今、使っている輪針は、1週間に2枚位の割合でセーターを編むので、半年位でだめに(消耗してしまう)になってしまうのである。

機械紡糸の糸もあるが、フリアカまで行かないと売っていないので、アルパカ

の糸は、ほとんどすべて自分で紡いでいる。日本ではとても考えられない事であるが…。おみやげ屋さんのメルカード(市場)で、時々、ほんの少し紡いだのを売っている事もあるが、あくまでも、おみやげ用である。

出来上がったセーターは、一応井戸に溶めた水で洗って、裏返しにして、草の上や、地面の上にして、そのあとピンチヤール(針金で出来たタワシみたいなもので起毛させるのに使う)をかけて、1枚のセーターが出来上がるのである。

## ★アルパカセーターの集散地PunoとJuliac



プーノの町はるかかなたに見えるのはチチカカ湖



フリアカ・コンドリのお店

アルパカセーターが編まれている地域は、プーノ、フリアカを中心としたほぼ60~70km内であろう(2・3ページ参照)。フリアカのフェリア・デ・ネゴシオ(商売をしている人々の為の市)で、かなりのセーターや、ボンチュ、ポルサ(袋物)、ガンテス(手袋)、チュウリョ(帽子)、

チャリーナ(マフラー)、マンタ、ヒモ、アルパカの原毛などの商品やアルプナーノ達や商人達が集まる。この商人達を相手にしている市は、日曜日の朝早く、4:00AM-8:00AM頃まで開かれ、それ以後は一般の人々の為の市となる。そしてお昼過ぎで市は終りになる。交通の便が発達していないのと、夜は電気も共い為、彼らの行動時間は、夜あとも共に働き始め、お昼ちょっと過ぎになると家路に急ぐのである。この市で集まるセーターは、チョン(セーターの事)ルスティコ、チョンバイスラ(丸ヨーク調のもの)などである。

## ★編物の講習会を開いて

男の人も、女の人も、又子供でさえも編む事を副業としてはいるけれども、日本という、一番基礎的なものがないのは驚かされた。例え基礎はほとんどがラグラン袖で、正式なセットイン・スリーブは知らなかったし、V衿もガーター編であって、前中央に目を立てたゴム編

フリアカの目黒編市で、アルパカの原毛



編物講習会の時の写真

のV衿は編まず、又後ろ衿ぐりも全くなく、いつも一直線である。日本の様に何回教室という、おけいご事はほとんどなく、洋服学校1つがある位で、編物の講習会を開いた時は皆んな意気揚々としていた。その日は、遙かなたからお弁当持参でやって来る。そのお弁当というのは、ジャガイモ、チュニーヨ(乾燥ジャガイモ)、マイス(乾燥トウモロコシ)、アバ(そば豆)などの中でのや、キヌアをこねて作った、粉まんじゅうみたいなもの、カンボンパン(田舎パン)といて、アリーナ(メリケン粉)をこねてフリートして作ったパンなど、それぞれが持参したものを一枚の大きなマンタにパキッと集めて、輪になっていろんな事をおしやべりしながら食べるのである。この日は、アルプナーノ達と本当に心がけてく様で、何か胸に熱いものがこみ上げてくる楽しいひと時であった。

アルパカで編まれた小もの



ガンテス(手袋)

帽子

チャリーナ(マフラー)





○コンタード糸、草木染めの糸を使って編んだ美しい作品。



○コンタードと言われるひとつつ編(五編)の入ったカーディガン。



○チョンリシルカと呼ばれ、コフタ裾で編まれる模様。



○草木染めの糸を使ったカーディガンは、ベルトル付き。



○アリアカ織りで編まれたセーター。プレー糸でまとめられている。



○チョンハイソウ(内ゴフセーター)。多色編み込みが特徴的。



○ペルーにちかからあるトゥーミー糸を編んだセーター。



○インタイズ足はセットインぶリタグランスリーブが特徴的である。



○肩にV字型の編み込みがセーター。



○フーリーは布に刺しゅうが特徴。肩元ではニットにも刺しゅうされている。



○ミックス糸と、独特な色のワラージョンが良く調和している。



○肩元と袖ぐりのガーター編は肩と一線に編み継ぎする。

# これが本場のペルーセーター

★ Peru Sweater  
アンデスに住むアルパカの毛を、インディオたちが手で紡ぎ、編んだセーター。チチカカ湖のまわりでほとんどのが編まれ、それぞれの部落で特徴がある。

製法協力 (有) 中山商店 内藤商事(株)



○最新編コンタードの技法で編んだ、ナチュラルカラーのベスト。



○季節感による色ムラで、味わいのあるセーター。



○リヤマと人の組合せの一般的なセーター。草木染めの糸を使って。



- 自然が匂う素朴な味わい
- しっとり手にやさしく、なめらかなタッチ
- 暖かさ、軽さも抜群
- 伝統柄を生かしたペルーセーターに
- 自然色を生かした単色と、カラフルな段染があります。



**新発売**  
**ダイヤアルパカ**

毛100% (アルパカ50%) (40g玉巻)  
単色 ¥5550円 段染 ¥7000円

**TOYOBO**

東洋紡

編みたくなったら  
**ダイヤモンド毛糸**  
東洋紡績株式会社 発売元/ダイヤ毛糸株式会社



ダイヤモンド毛糸  
発売60周年

愛をつたえるなら竹あみ針。  
編みあがり違います。



ダイヤモンド毛糸特選あみ針

●本場のアルパカ・セーターが手軽に編めるダイヤアルパカ

南米ペルーで生まれたノスタルジー・ヤーン。

ペルーセーター

東洋紡績株式会社 代表取締役社長 藤田 隆雄 代表取締役 藤田 隆雄 代表取締役 藤田 隆雄 代表取締役 藤田 隆雄  
Produced in Japan. ©T. Otsu. 2004  
www.toyoobo.com

5077  
5475  
5759

定価780円

27-14